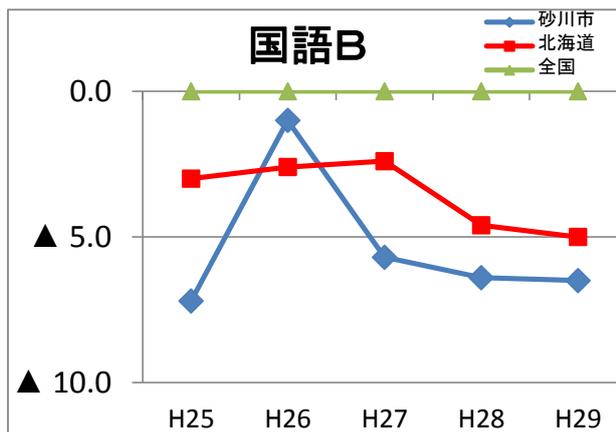
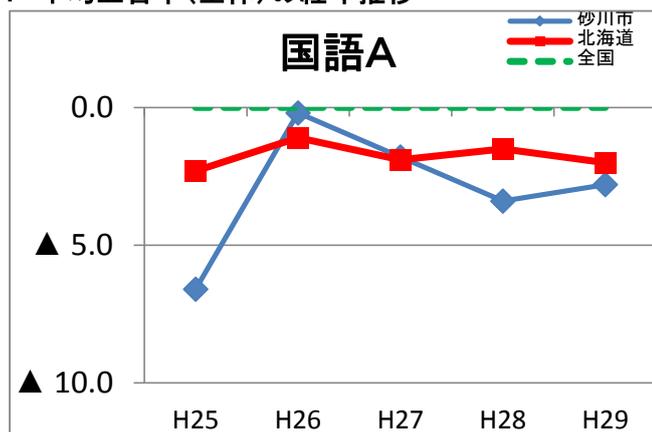
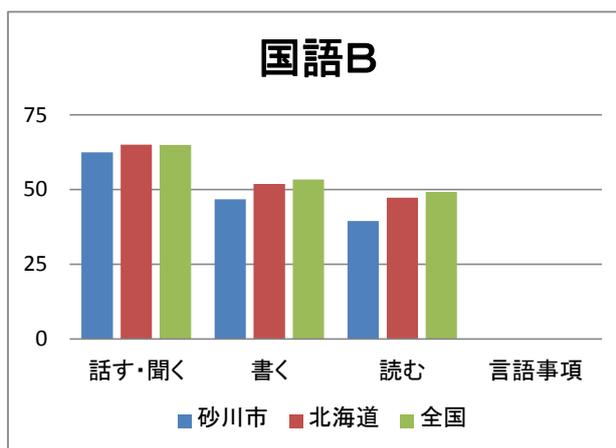
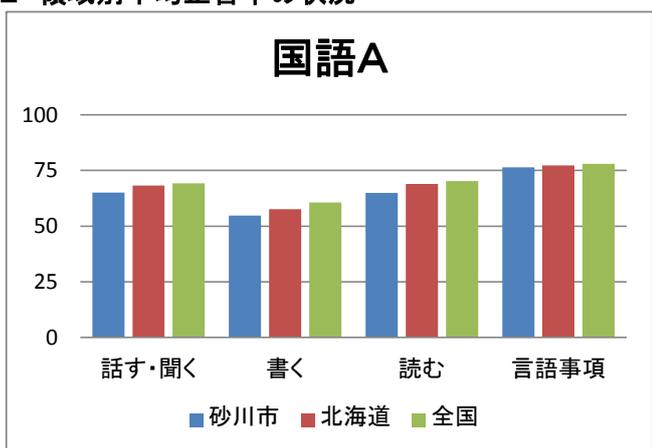


小学校国語（学校数：5校 児童数：129名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童(努力を要する児童)の割合

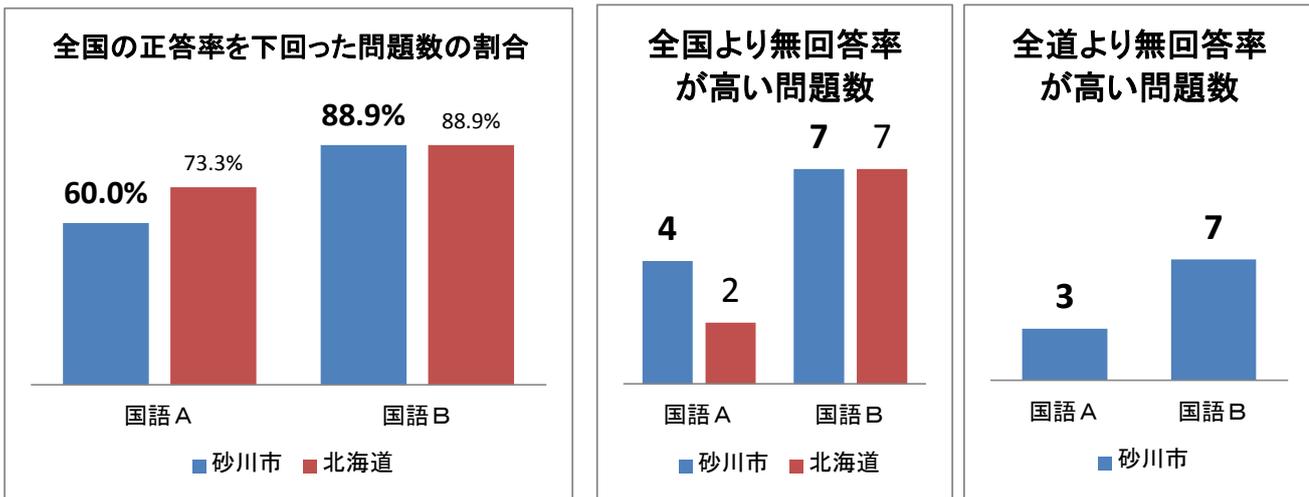
◎ 国語A

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	32.4 %	33.1 %	29.4 %	20.2 %	23.9 %	21.3 %	27.2 %	24.1 %	22.3 %
正答数	14問中8問以下			15問中8問以下			15問中9問以下		
全国との差	3.0 多い			1.1 少ない			4.9 多い		

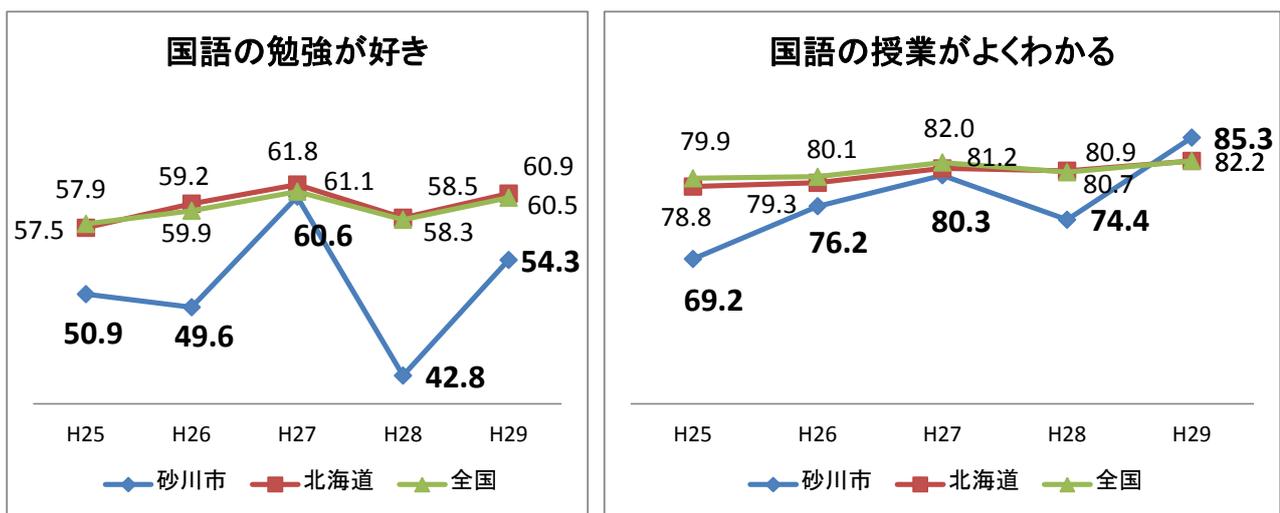
◎ 国語B

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	33.8 %	29.6 %	26.5 %	38.0 %	32.6 %	29.8 %	32.6 %	24.8 %	23.2 %
正答数	9問中4問以下			10問中4問以下			9問中3問以下		
全国との差	7.3 多い			8.2 多い			9.4 多い		

4 A問題とB問題の正答率の差異と無回答率の状況



5 国語の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

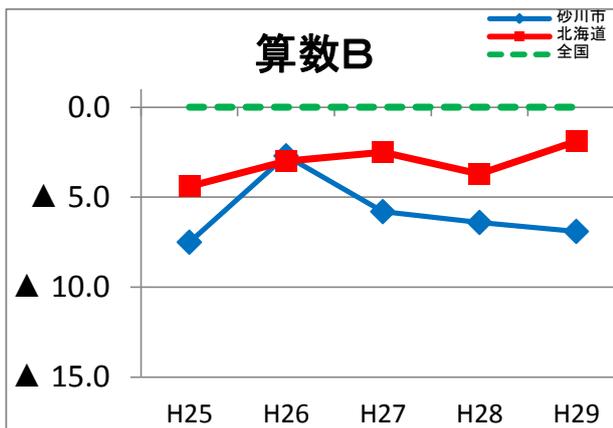
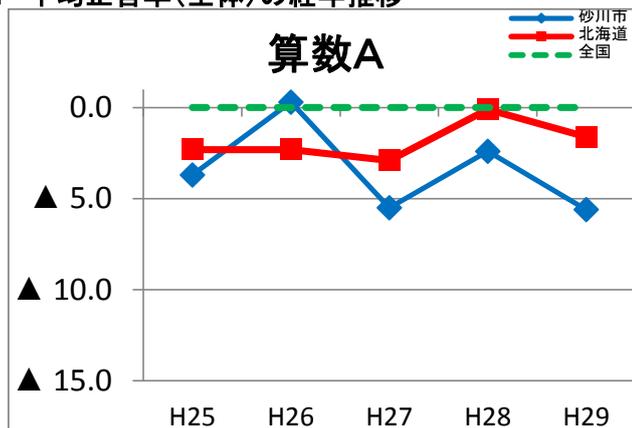
- 国語Aについては、若干ではあるが全国平均との差が縮まったが、国語Bについては、全国平均との差がさらに広がっている。
- 国語Aでは、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題」「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題」「手紙の構成を理解し、後付けを書く問題」において、全国平均を5ポイント以上下回っている。
- 国語Bでは、「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題」「目的や意図に応じ、引用して書く問題」「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題」「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題」「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題」において、全国平均を5ポイント以上下回っている。

7 授業改善の視点

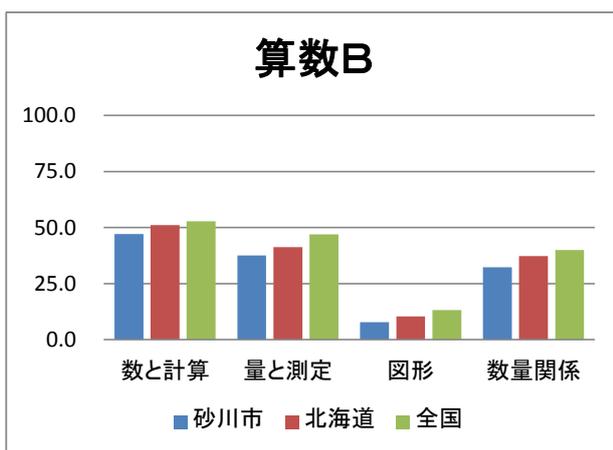
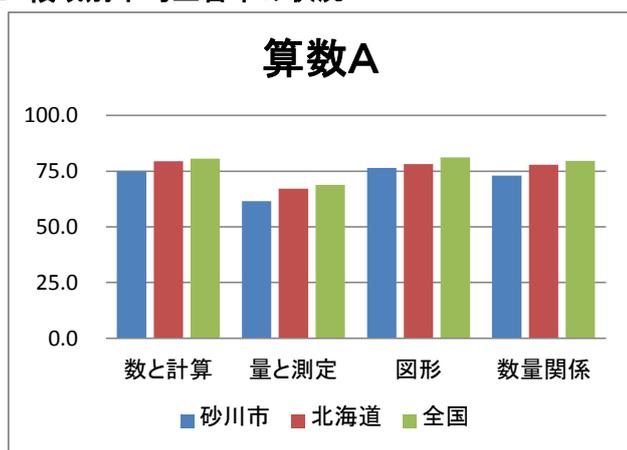
- 漢字・語句など、基礎的・基本的な事項を確実に定着させる授業や様々な文章を読む習慣を付ける授業の実践。
- ノート指導の充実を図り、書く習慣を付ける授業の実践。
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせたり、伝えたりする指導を取り入れた授業の実践。

小学校算数（学校数：5校 児童数：129名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童(努力を要する児童)の割合

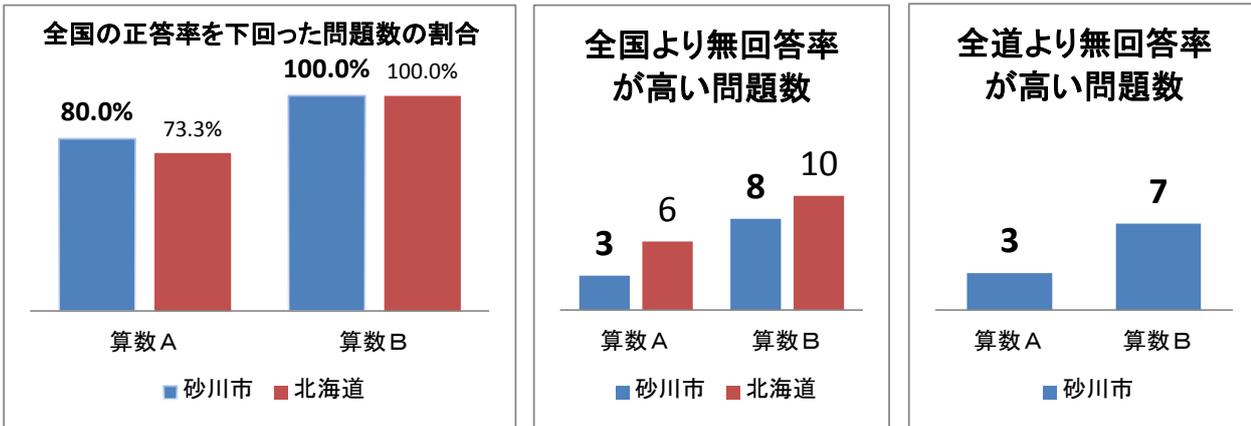
◎ 算数A

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	29.8 %	26.3 %	21.7 %	28.2 %	28.1 %	24.2 %	38.9 %	29.5 %	27.3 %
正答数	16問中9問以下			16問中10問以下			15問中10問以下		
全国との差	8.1 多い			4.0 多い			11.6 多い		

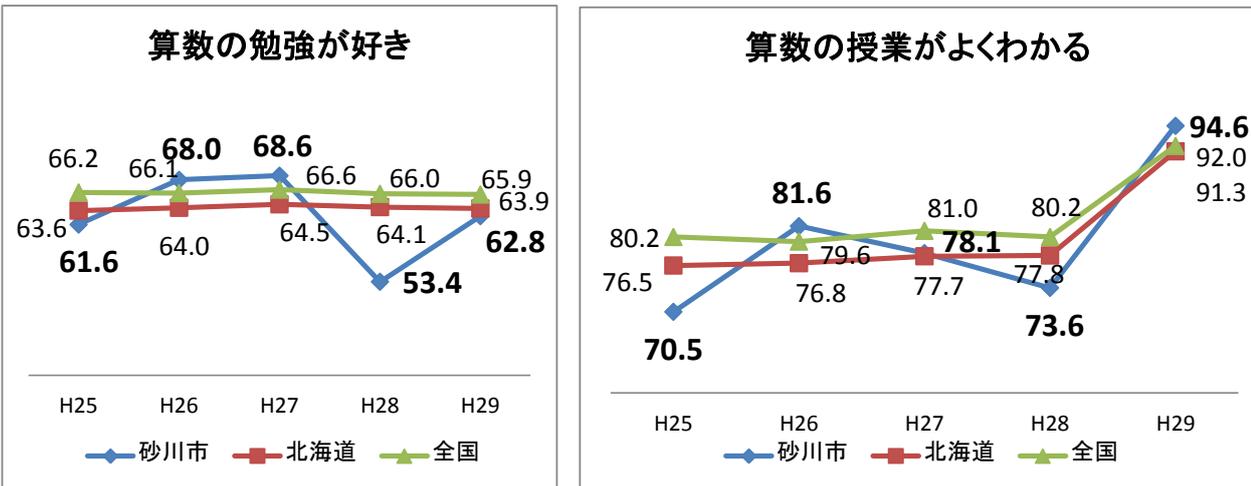
◎ 算数B

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	35.0 %	28.8 %	25.2 %	28.5 %	23.6 %	20.0 %	46.5 %	33.7 %	30.5 %
正答数	13問中3問以下			13問中3問以下			11問中3問以下		
全国との差	9.8 多い			8.5 多い			16.0 多い		

4 A問題とB問題の正答率の差異と無回答率の状況



5 算数の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

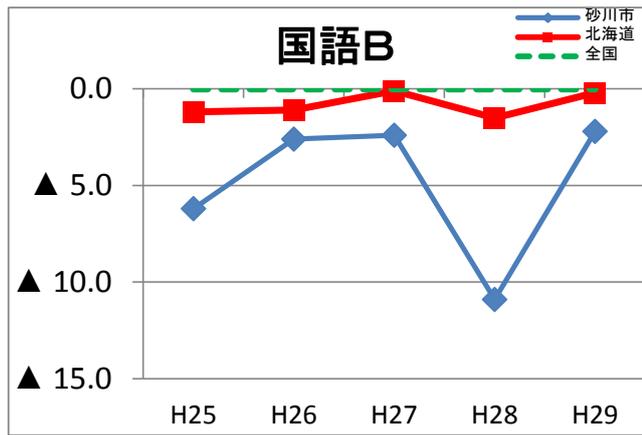
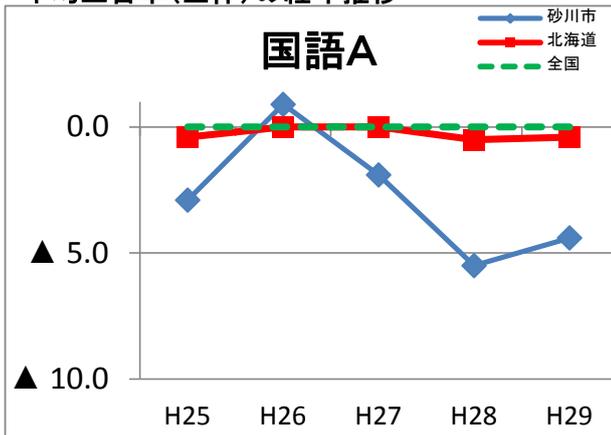
- 算数A、算数Bともに、全国平均との差が大きく広がっている。
- 算数Aでは、「小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解する問題」「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題」「商を分数で表す問題」「平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解する問題」「立方体の面と面の位置関係を理解する問題」などにおいて、全国平均を5ポイント以上下回っている。
- 算数Bでは、「示された資料から必要な数値を選びその求め方と答えを書く問題」「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断する問題」「示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する問題」「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題」などにおいて、全国平均を5ポイント以上下回っている。

7 授業改善の視点

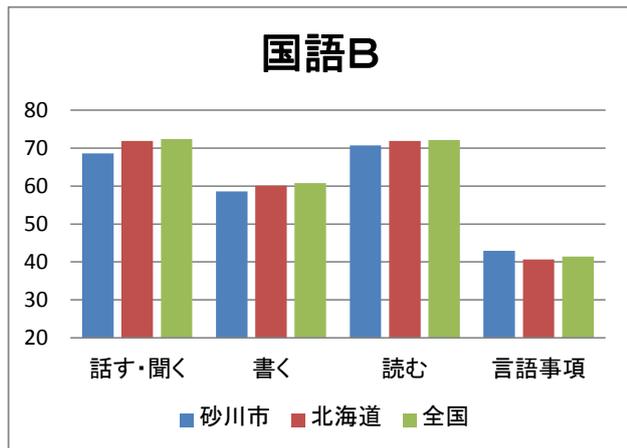
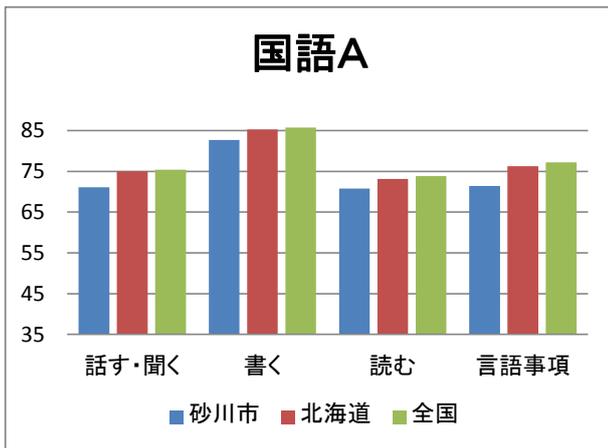
- 授業のめあてを明確にして見通しをもたせるとともに、学習したことを振り返り、まとめる活動を計画的に取り入れた授業の実践。
- 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るための反復学習を取り入れた授業の実践。
- 少人数による指導や習熟度別による指導を取り入れた授業の実践。

中学校国語（学校数：2校 生徒数：140名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒(努力を要する生徒)の割合

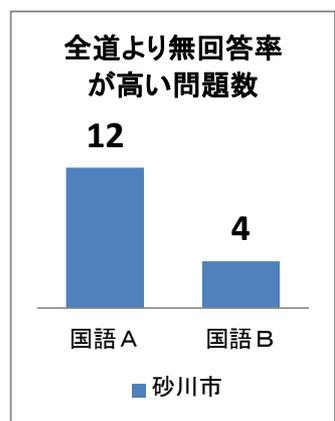
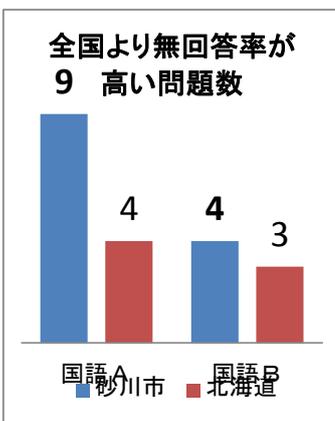
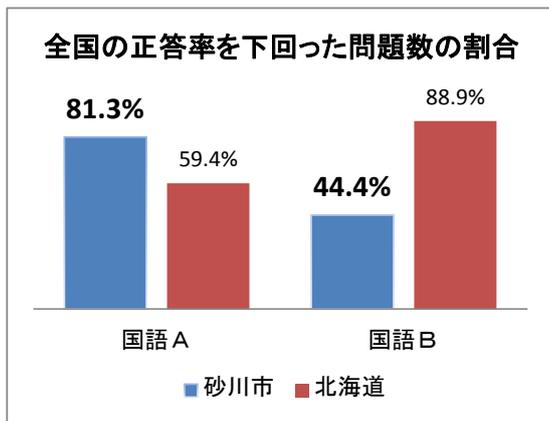
◎ 国語A

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	25.3 %	23.3 %	23.0 %	39.1 %	28.3 %	26.5 %	32.8 %	25.1 %	23.2 %
正答数	33問中21問以下			33問中22問以下			32問中21問以下		
全国との差	2.3 多い			12.6 多い			9.6 多い		

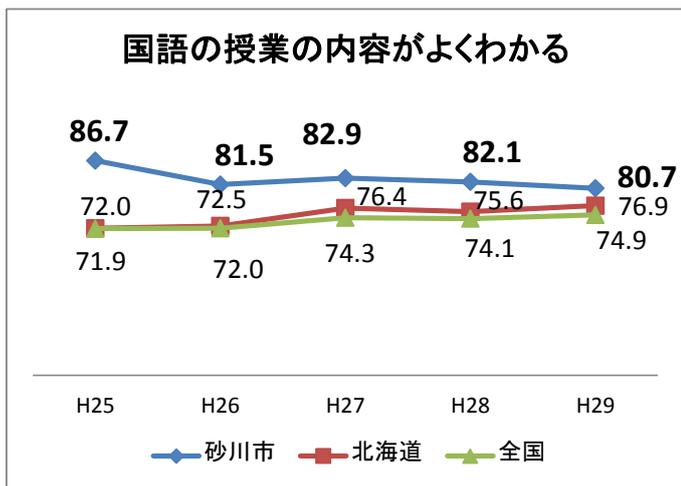
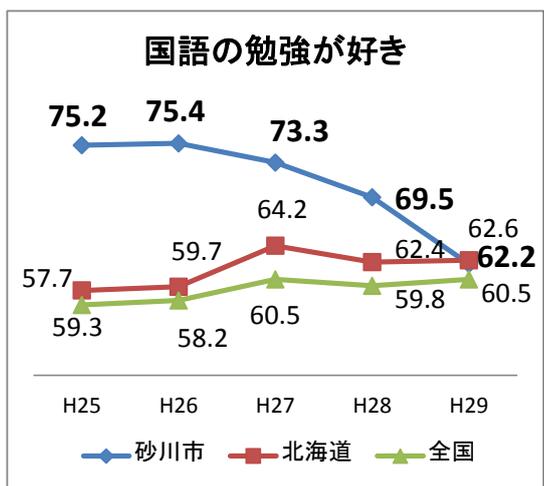
◎ 国語B

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	28.0 %	21.9 %	20.7 %	43.7 %	27.8 %	25.4 %	30.6 %	28.5 %	27.8 %
正答数	9問中4問以下			9問中4問以下			9問中5問以下		
全国との差	7.3 多い			18.3 多い			2.8 多い		

4 A問題とB問題の正答率の差異と無回答率の状況



5 国語の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

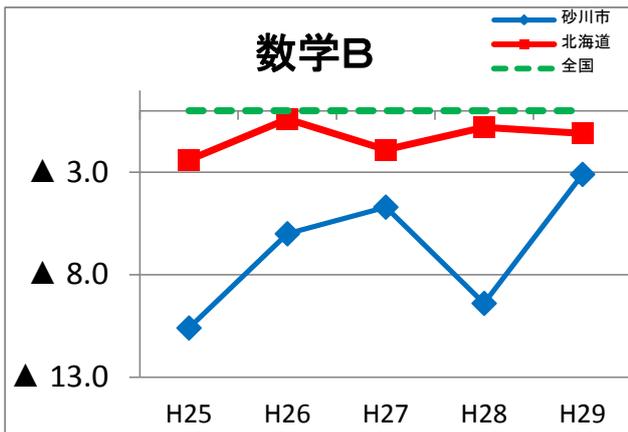
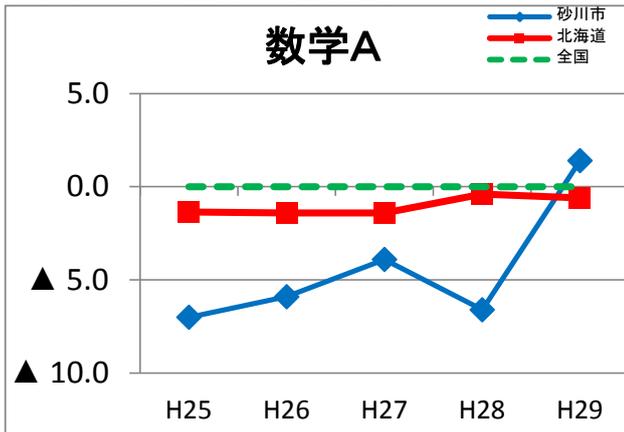
- 国語A、国語Bともに全国平均との差が縮まり、特に、国語Bは全国平均との差が大きく縮まっている。
- 国語Aでは、「話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題」「目的に応じて資料を効果的に活用して話す問題」「文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ問題」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題」「文脈に即して漢字を正しく書いたり、階書と行書との違いを理解する問題」などにおいて、全国平均を5ポイント以上下回っている。
- 国語Bでは、「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す問題」「目的に応じて必要な情報を読み取る問題」において、全国平均を5ポイント以上下回っている。

7 授業改善の視点

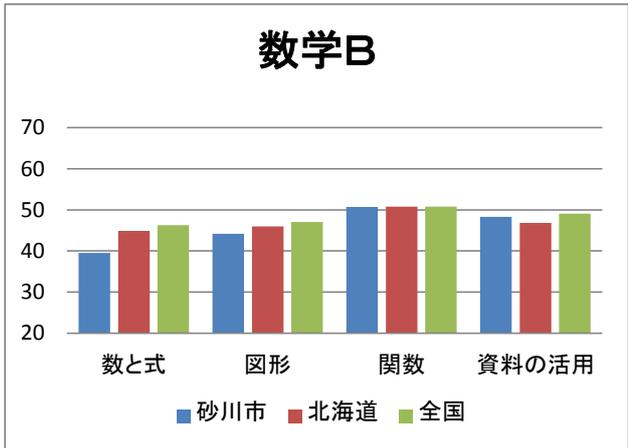
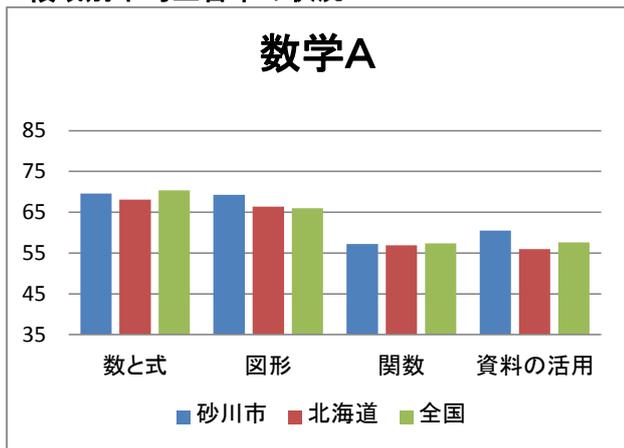
- 漢字・語句など、基礎的・基本的な事項を確実に定着させる授業や様々な文章を読む習慣を付ける授業の実践。
- 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせたり、伝えたりする指導を取り入れた授業の実践。
- 言語活動に重点を置いた指導計画の作成と生徒自らが課題を設定し、解決に向けて話し合う等の学習活動を位置付けた授業の実践。

中学校数学（学校数：2校 生徒数：140名）

1 平均正答率(全体)の経年推移



2 領域別平均正答率の状況



3 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒(努力を要する生徒)の割合

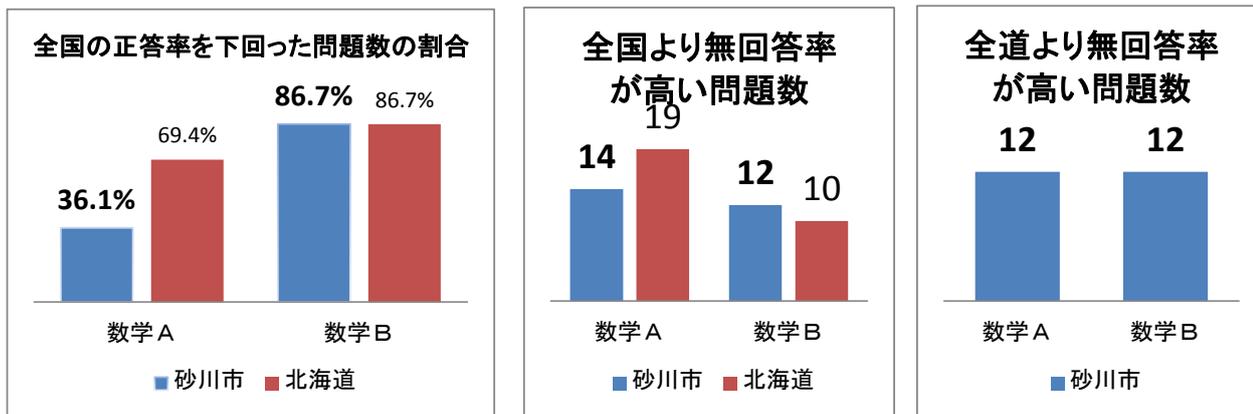
◎ 数学A

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	32.6 %	27.1 %	24.7 %	37.9 %	26.8 %	25.1 %	24.1 %	27.3 %	25.2 %
正答数	36問中17問以下			36問中16問以下			36問中17問以下		
全国との差	7.9 多い			12.8 多い			1.1 少ない		

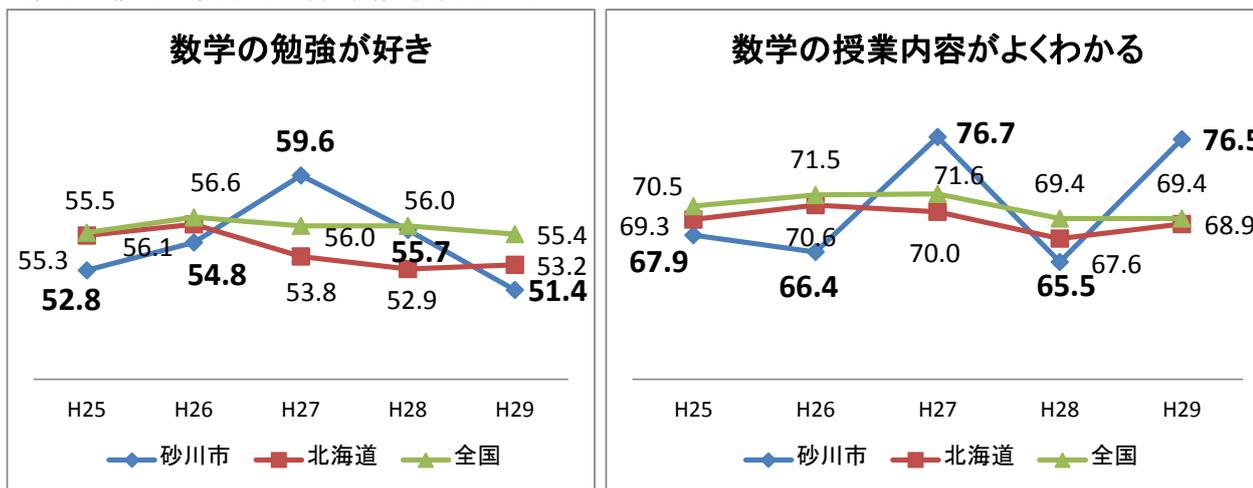
◎ 数学B

	H27			H28			H29		
	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国	砂川市	全道	全国
割合	38.4 %	31.8 %	28.8 %	39.7 %	22.9 %	21.3 %	27.0 %	24.5 %	22.5 %
正答数	15問中3問以下			15問中3問以下			15問中4問以下		
全国との差	9.6 多い			18.4 多い			4.5 多い		

4 A問題とB問題の正答率の差異と無回答率の状況



5 数学の授業に関する意識(質問紙調査より)



6 分析

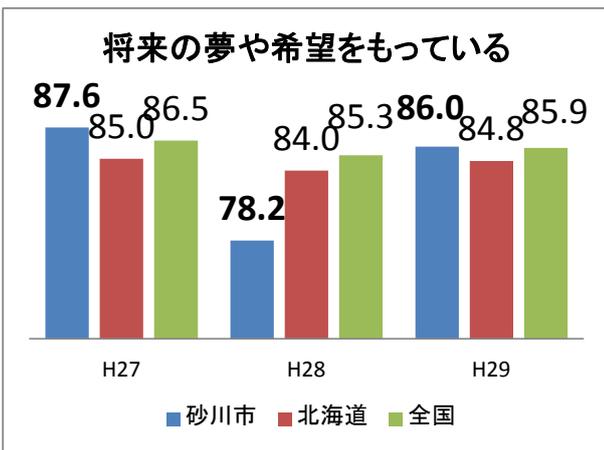
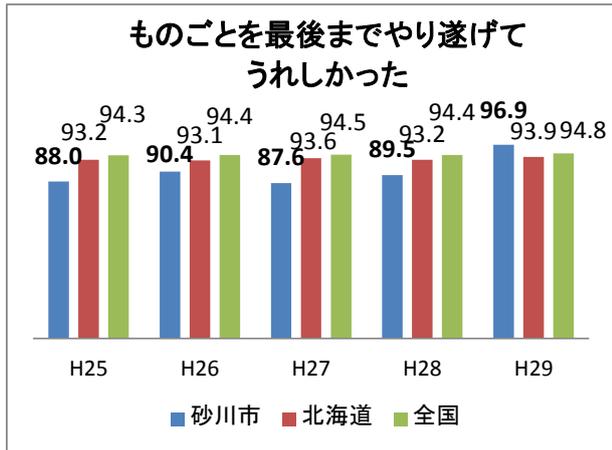
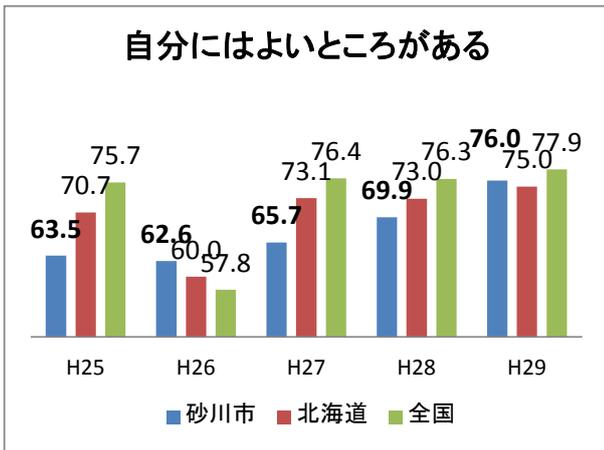
- 数学A、Bともに全国平均との差が大きく縮まり、特に、数学Aは全国平均を上回っている。
- 数学Aでは、「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算の決まりにしたがって計算する問題」において、全国平均を5ポイント以上下回っている。
- 数学Bでは、「問題場面における考察の対象を明確に捉える問題」「与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現する問題」「事象と式の対応を的確に捉え、事象が成り立つ理由を説明する問題」「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題」などにおいて、全国平均を5ポイント以上下回っている。

7 授業改善の視点

- 授業のめあてを明確にして見通しをもたせるとともに、学習したことを振り返り、まとめる活動を計画的に取り入れた授業の実践。
- 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るための反復学習を取り入れた授業の実践。
- 身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を意欲的に活用するとともに、思考力を高める授業の実践。

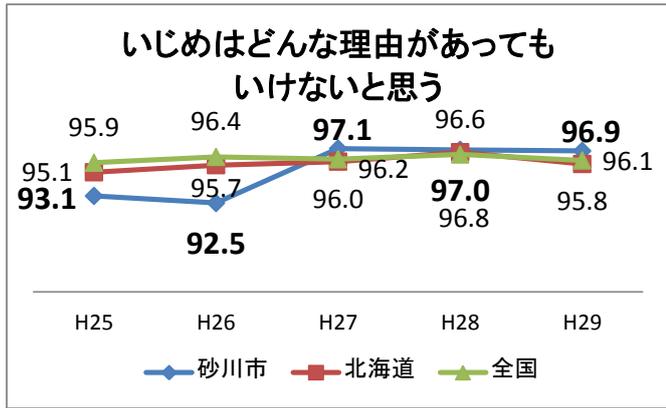
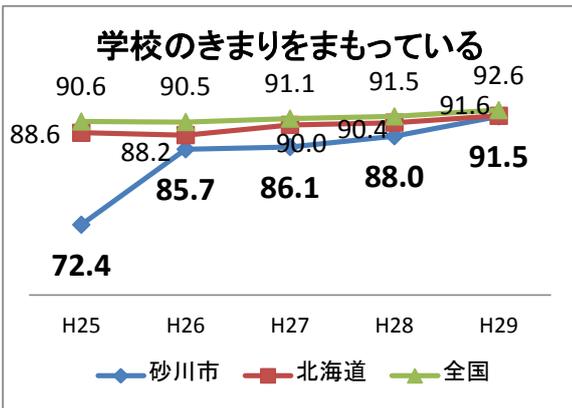
小学校質問紙調査（学校数：5校 児童数：129名）

1 自尊感情に関する児童の状況



「将来の夢や希望をもっている」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」と回答している児童の割合が全国平均を上回っているが、「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合が全国平均を下回っていることから、道徳の授業や体験的な活動を通して、児童の自己肯定感を高めるための教育活動を意図的に取り入れていくことが必要である。

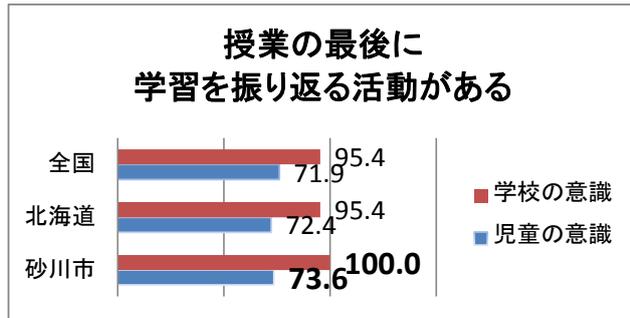
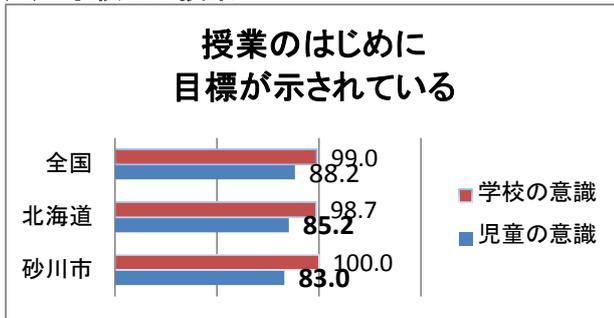
2 規範意識に関する児童の状況



学校のきまりをまもっている児童の割合は、年々、全国平均との差は縮まってきてはいるものの、依然として全国・全道の平均を下回っていることから、家庭・地域と連携した規範意識を高めるための具体的な取組が必要である。また、いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての児童がいじめはどんな理由があっても許されない行為であることを認識できるよう、様々な場面を通して、引き続き指導していくことが必要である。

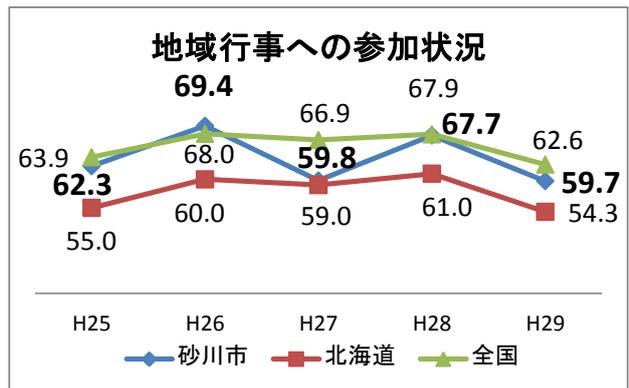
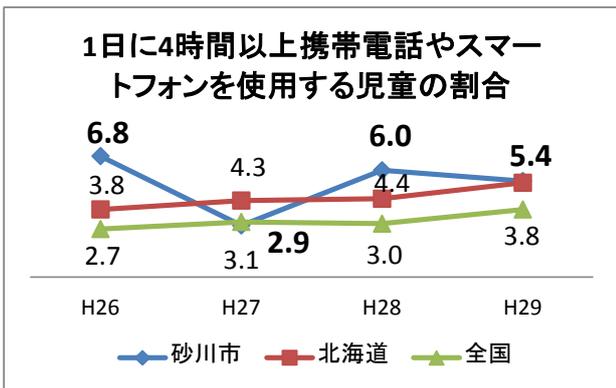
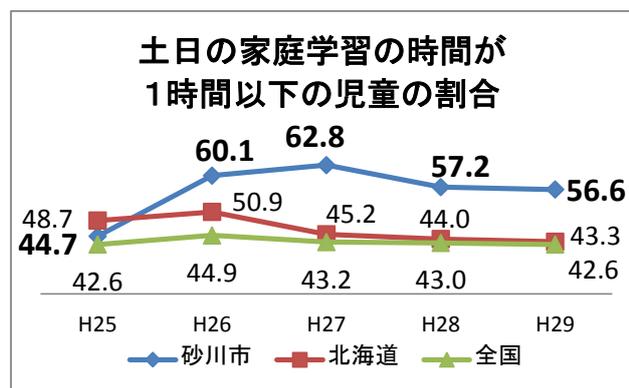
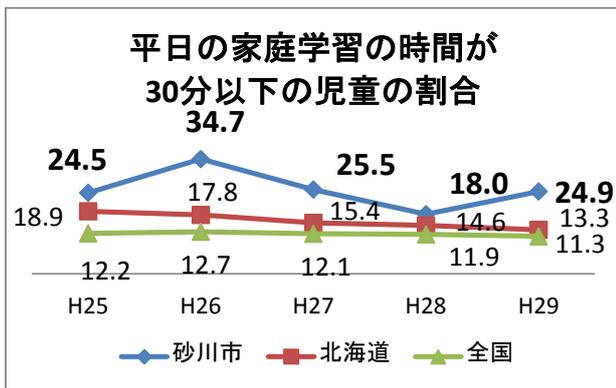
3 学習に関する児童の状況

(1) 学校での授業



日常の授業の進め方に関する児童と学校の認識の差が大きいことから、児童の発達段階を踏まえ、授業のはじめに目標を明確に示し、児童が見通しをもって学習に取り組むことのできる授業実践や授業の終末に学習した内容を振り返る活動を確実に取り入れるなど、指導過程の時間配分に留意し、学習内容の一層の定着を図る授業改善が必要である。

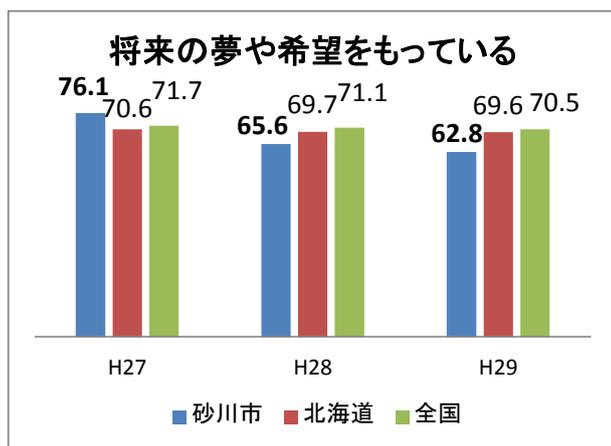
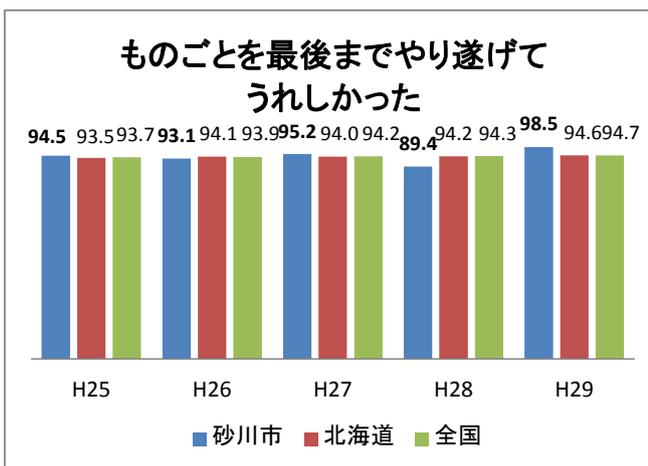
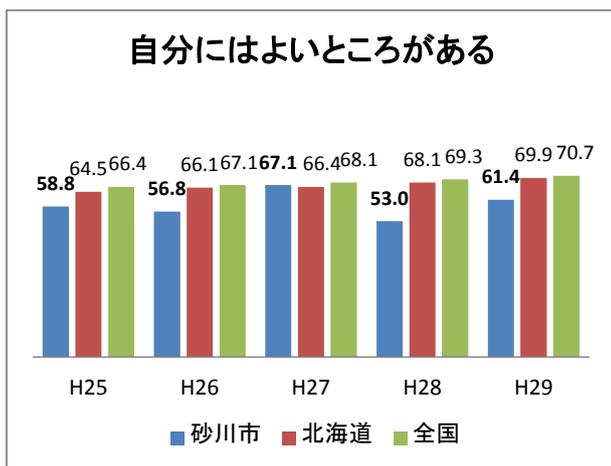
(2) 家庭での学習状況や過ごし方



1日に4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する児童の割合が全国平均を上回っている状況が続いていることから、生活リズムチェックシートを活用するなどして、家庭での基本的な生活習慣を見直すとともに、スマートフォンなどの使用にかかわる家庭でのルールづくりが必要である。また、平日における家庭学習の取組については、依然として大きな課題が見られ、全国・全道平均と比較しても市内の児童の学習時間は極めて少ない傾向が続いていることから、学校・家庭・地域が一体となって、望ましい学習習慣を身に付けさせるための具体的な取組や放課後学習サポート事業を活用するなどの工夫が必要である。

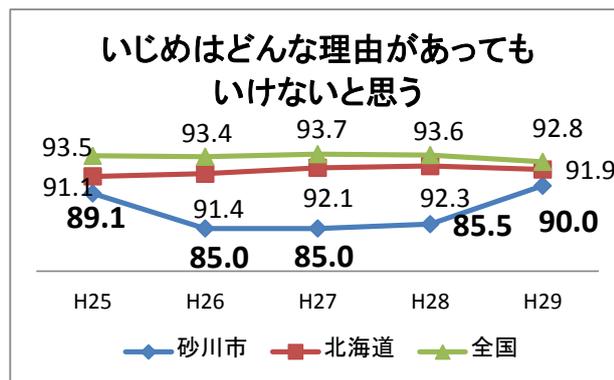
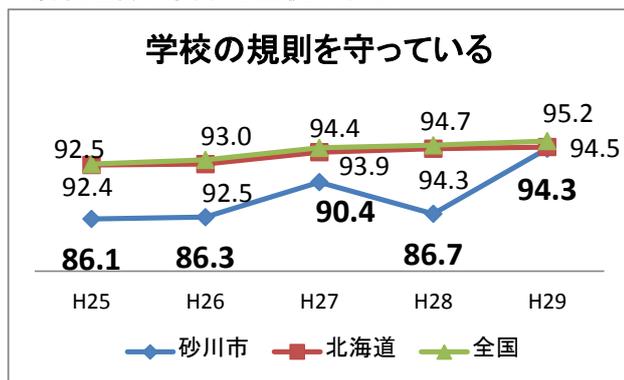
中学校質問紙調査（学校数：2校、生徒数：140名）

1 自尊感情に関する生徒の状況



「将来の夢や希望をもっている」「自分にはよいところがある」と回答している生徒が、全国平均を大きく下回っていることから、道徳の授業や体験的な活動を通して、生徒の自尊感情や自己肯定感を高めるための教育活動を意図的に取り入れていくことが必要である。

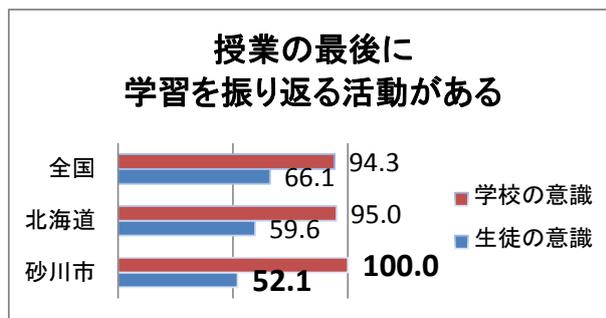
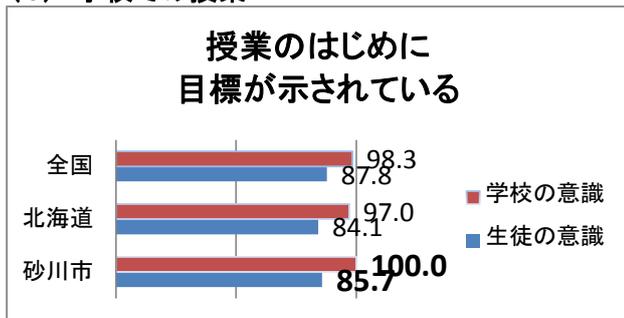
2 規範意識に関する生徒の状況



学校の規則を守っている生徒の状況には改善傾向が見られるが、依然として全国・全道の平均を下回っていることから、家庭・地域と連携した規範意識を高めるための具体的な取組が必要である。また、いじめに対する考え方も改善傾向がみられるが、全ての生徒がいじめはどんな理由があっても許されない行為であることを認識できるよう、様々な場面を通して、引き続き指導していくことが必要である。

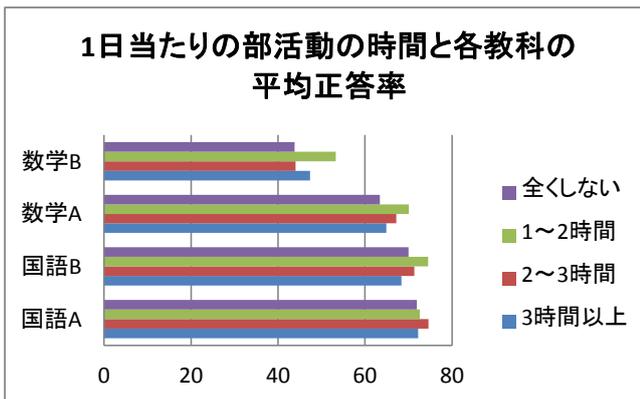
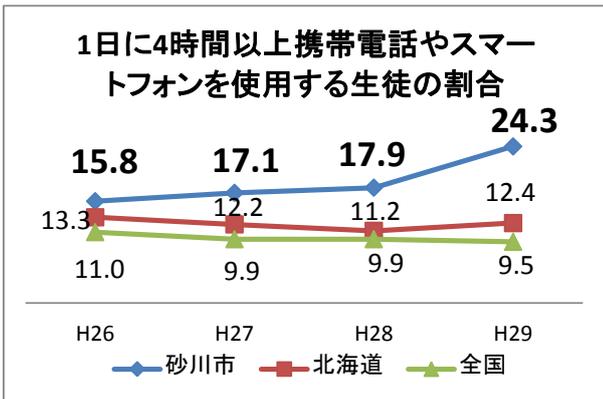
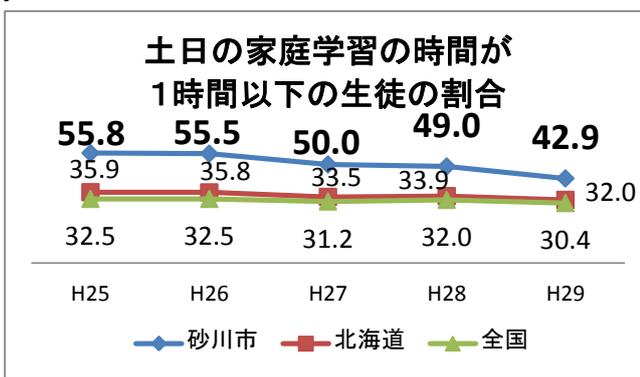
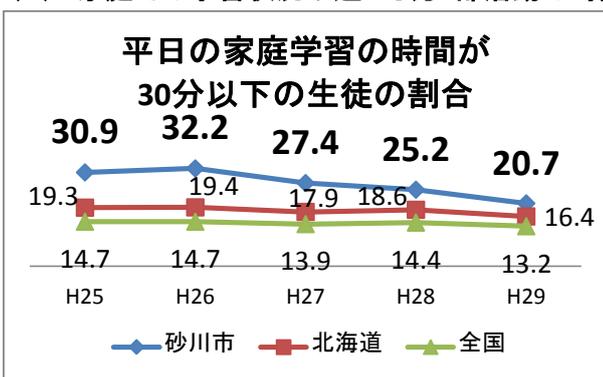
3 学習に関する生徒の状況

(1) 学校での授業



日常の授業の進め方に関する生徒と学校の認識の差が大きく、特に、授業の終末における振り返りの活動に対する認識の差が顕著なことから、指導過程の時間配分に留意し、振り返りの時間を計画的・確実に位置付ける授業改善を図るとともに、全ての生徒が見通しをもって学習に取り組むことのできるよう、授業のはじめに目標を示すなど、導入の工夫を意識した授業改善が必要である。

(2) 家庭での学習状況や過ごし方・部活動の時間



1日に4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する生徒の割合が全国・全道平均を大きく上回っている状況が続いていることから、生活リズムチェックシートを活用するなどして、家庭での基本的な生活習慣を見直すとともに、スマートフォンなどの使用にかかわる家庭でのルールづくりが必要である。また、平日における家庭学習の取組については、改善傾向は見られるものの依然として全国・全道平均と比較しても市内の生徒の学習時間は極めて少ない傾向が続いていることから、学校・家庭・地域が一体となって、望ましい学習習慣を身に付けさせるための具体的な取組が必要である。